

東京外国語大学 世界史 2014年 解答

1

問1	イスファハーン, サファヴィー朝	
問2	アカデミー=フランセーズ	
問3	イエニチェリ	
問4	景德鎮	
問5	アウラングゼーブ	
問6	タージ=マハル	
問7	香辛料	
問8	カルヴァン派	
問9	<p>17世紀の西アジアから南アジアには、オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国と、強大なムスリム国家が存在した。これらのムスリム国家では、都市にバーザール・隊商宿・マドラサが整備されるなど商業や学問がさかんで、美術もイスラームと各地の文化が融合して発展した。また他の民族・宗教に信仰や自治を認め軍事・商業で活用するなど寛容で、多民族が共存していた。 大航海時代の開幕後、ポルトガルに続き、オランダやイギリスなどの西欧諸国は東インド会社を設立してアジアに進出し、新大陸や日本の銀を用いて香辛料などのアジアの商品を購入した。また、宗教改革やオスマン帝国の圧迫を背景に、カトリック教会はイエズス会など修道会を派遣した。こうしたアジアや世界の状況を背景に、サファヴィー朝の全盛期を築いたアッバース1世が首都に定めた後のイスファハーンは、交易や文化が栄え、多民族が共存し、「世界の半分」と言われるまでの繁栄を見せた。</p>	<p>西・南アジアのイスラーム世界の状況。</p> <p>商業・学問・美術・民族の各側面に触れられるとよい。</p> <p>西欧の海外進出について。新大陸や日本の銀でアジアの商品を購入する点がポイント。</p> <p>宗教的理由からの進出についても触れておくこと。</p> <p>まとめ。アッバース1世によりサファヴィー朝の首都とされたことも指摘するとよい。</p>

問 1	「大東亜共栄圏」建設を唱え欧米の植民地軍を破って占領し軍政下に置いた。現地では当初スカルノのように独立のために協力する動きもあったが、資源の収奪などに対する反発から抗日ゲリラなどの抵抗運動が起こった。
問 2	すず
問 3	③・④スペイン・ポルトガル（※順不同可） ⑤オランダ ⑥フランス
問 4	坤輿万国全図
問 5	天津条約
問 6	キューバ
問 7	朝鮮戦争

日本の侵攻について。大義名分・相手を示したうえ、軍政下に置いたことも示したい。

現地の対応について。協力の動きと抵抗運動の両方を指摘できるとよい。